

## 歴代会長

(平成10年度～)  
初代 佐藤 邦助  
二代 川名 康博

三代 常田 元治郎  
四代 中林 英子  
五代 木下 正雄

六代 常田 元治郎  
七代 遠藤 久子 (現在)

## 四丁目アパート自治会のスタート

平成7年に、それまであった鷺宮母子住宅と鷺宮第八住宅の老朽化にともない、その全面建替え工事がスタートした。平成10年11号棟、平成12年に14号棟が完工、両棟合わせて110世帯が入居。ここに「都営大和町四丁目アパート自治会」が発足した。この辺りは、昭和30～40年代には、若者や子供達の多い大変賑やかで活気に満ちた地域だったが、四丁目アパートができた頃には少子高齢化が進み、当自治会も高齢者が半数以上を占めるという状況だった。更に高齢化が進むと予測され、その後の自治会運営にさまざまな問題が生じる可能性を孕んだスタートだった。

## 四丁目アパートのいま

懸念された居住者の高齢化は予測通り進んでいるが、新たに幼い子供のいる所帯も入れ替わるように徐々に増えつつある。さまざまな世代が混在するようになった状況の中で、人々のコミュニケーションがますますその重要度を高めている。そのためには、居住者が集う機会をできるだけ多くつくる必要がある。そこで原則、居住者全員参加による毎月第一日曜日の敷地内の除草、低木の剪定、清掃等の作業、年1回の自治会による防災訓練を行うことにより交流を深め、コミュニケーションの向上に努めている。四季の移ろいとともにも多くの花々が咲き誇り、木々の深い緑に囲まれた美しい環境がそこにはある。朝夕や休日には、子供たちの明るく元気な声が響きわたる。住む人々が集い語り、笑顔に溢れている。それが活気を取り戻しつつある今の四丁目アパートである。

## 四丁目アパートのこれから

昨今の地震をはじめとした予測されるさまざまな災害に対処するため、防災は極めて重要な課題と考えている。そこで防災に対する意識の強化、知識や技術習得のため、消防署の指導のもと、消火器、スタンドパイプ、軽可搬消火ポンプ等の使用訓練、安否確認、傷病者救助、胸骨圧迫やAEDを使用する救命救護の習熟訓練に、毎年熱心に取り組んでいる。その他、地域の合同防災訓練にも、積極的な参加を心がけている。災害時には特に協力して事に当たることの重要度の高い集合住宅。

今後は、共助という観点からも、若い世代を中心にさらに多くの参加がもとめられる。

四丁目アパートの、健康的で良質な生活空間の維持、さらなる向上のために、今後はごみ処理をはじめとして、衛生面の配慮、住環境の美化に努め、事故や犯罪の無い安心安全な暮らしの場づくりに取り組む。高齢者や子供たちにとって、これらは特に重要な課題だからである。



防災訓練